

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
11011	哲学A	2単位 前期	1~4	講義	安次嶺 勲 (非)

■**テーマ** 東洋哲学・思想の特質を理解しつつ、現代にも適応可能な哲学・思想的なあり方を提示し、現代問題の解決の糸口とする。

■授業の概要

西洋の哲学思想が行き詰まりを呈している現在、西洋の諸思想家はその行き詰まりを打破しようと、東洋の思想に目を向け始め、今や、東洋思想の研究は世界的に広がりつつある。

それに対して、特に明治時代以降、西洋思想を取り入れることに専念してきた東洋人としての我々は、自らの文化の哲学思想をどれだけ理解しているのだろうか。

本講義では、東洋の哲学思想を中心に、その思想的特質と倫理観について考察する。特に、インド哲学・仏教を思想的に概観し、西洋哲学・思想との比較も交えつつ、東洋哲学・思想、更にはそれらと芸術の可能性等について検討する。

■到達目標

- (1) 東洋哲学・思想、特に、インド・中国・日本の思想の特質を正確に理解することができる。
- (2) (1)の理解に基づいた現代問題解決の糸口を提示することができる。

■授業計画・方法

1. イントロダクション
2. バラモン思想 (I)
3. バラモン思想 (II)
4. 自由思想運動
5. 原始仏教 (I)
6. 原始仏教 (II)
7. 中観派の思想
8. 唯識派の思想
9. 如来蔵思想
10. 儒教
11. 老子
12. 道教
13. 日本の思想-原始宗教と仏教の融合- (I)
14. 日本の思想-原始宗教と仏教の融合- (II)
15. **まとめ 「定期試験は実施しない。」**

■履修上の留意点 (授業以外の学習方法を含む)

・東洋思想史・哲学史関係の書籍を読んでおくことが望ましい。本講義の講義スタイルは思想の流れを重視する傾向があるので、極力休まず出席することが望ましい。

■成績評価の方法・基準

□**方法** 平常点 (30%) と講義終了後に提出していただくレポート (70%) の両方を評価の対象とする。

なお、レポートの書き方等の詳細については、原則として、

- (1) 2000字から2500字程度の字数で
- (2) レポート作成に際しては、少なくとも、参考資料を一つ以上使用し、使用した参考文献等は必ず挙げる
こと。詳細については講義内で説明する。

□**基準** 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

■教科書・参考文献 (資料) 等

□**教科書**：本講義では担当者より配布されるプリントで講義を進めて行くので教科書はない。

□**テキスト**：プリント

□**参考文献**：講義の中で適宜紹介する。